

「私をどうするのですか？」



そこは見知らぬ高いビルの上。なのに、介護士さんは足を出してとか大丈夫だとか言う。「大丈夫なはずない！」との思いから怖くて一歩も動けない状況の認知症の女性をVRで体験。実はデイサービスの送迎で、車から降りる際に足を踏み出せないことがあった認知症の女性に後日理由を尋ねたところ、「ビルの3階から落とされそうだった！」と語ったのを映像化した。

ふと眠りから覚めた電車内。認知症の女性の視点からVRで車内を見渡すことができる。横浜へ向かっていたはずなのに、今どこにいるのか、乗換え駅がどこだったかわからなくなり、不安に駆られる認知症の女性のつぶやきが聞こえる。乗客みんなが降りる駅で降りたものの場所がわからず、「ここはどこですか」と駅員さんに聞いても怪訝な顔で「出口は向こうですよ」と言われ途方にくれていると、「どうしました？」と声をかけられ、乗り換え口まで案内してくれるという若い女性との出会いによって救われるのが、まるで自分自身の体験のように感じられる。座席から立ち上がる際の視線の変化に、思わず自分も立ち上がりそうになる臨場感だ。

「ここはどこですか？」



VR 認知症体験会



ヘッドマウントディスプレイとヘッドホンを装着し、認知症の人の体験を追体験。前後左右、上下に頭を動かすと視点が360度変わるため、まるで本当にその場にいるかのような錯覚に陥る。各地でVR認知症体験会を実施し、すでに

3,000人が体験。約10社がVR認知症プログラムを導入予定だという。



見るだけでヘルスリテラシーが向上する

健康応援団

バーチャルリアリティ

認知症体験から認知症を理解する

VR認知症プログラム

親の介護により離職を余儀なくされたり、若年性認知症の発症により職を失うことがないよう認知症リテラシーを高め、仕事と介護・病気の両立支援を職場で進めるサポートツールになりそうだ。

「認知症になったら人生おしまい」「認知症の徘徊に振り回されたいへん」。そんな認知症に対するマイナスイメージや誤った認識から脱却し、認知症の人が当たり前に暮らせる住みやすい社会をつくるためには、社会とつながる入口の人たちの認知症に対するリテラシーを上げることが重要であると、企業や学校、地域などで『VR認知症体験会』を実施している。賃貸住宅の管理を行う大手不動産会社では、地域住民向けに認知症を理解してもらうVR認知症体験会を企画。徳島県那賀町では地域住民を2地区に分け、VR認知症体験をした住民としない住民で、認知症に対するリテラシー向上に差があるかを徳島大学の協力により実証中だ。

1都2県でサービス付き高齢者向け住宅『銀木犀』11棟を運営する㈱シルバークウッドは昨年、『VR認知症プロジェクト』を立ち上げ、認知症の人たちに見えている世界をバーチャルリアリティ（VR）で一人称体験することができる『VR認知症プログラム』を作成。認知症の当事者たちの生の声を聞き、演技指導、チェックを経て、認知症の人たちが実際はどのようなことに困り、どのようなことに生きづらさを感じているのかを映像化した。現在4話が完成しており、若年性認知症発症後も仕事を続けている丹野智文さんの物語と、がん患者に寄り添う理学療法士の葛藤を描いたVRを作成中だ。

保健事業に携わる人の情報誌

へるすあっぷ21

特集

正しく賢く

セルフメディケーション

HEALTH WAVE

健康経営アワード2017

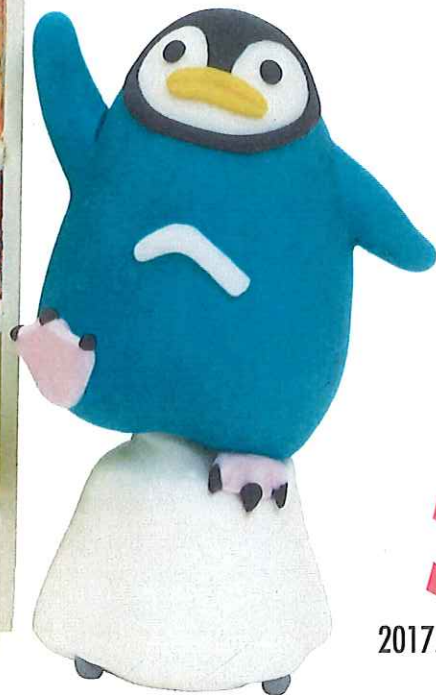
「健康経営銘柄2017」「健康経営優良法人2017」発表!

けんぽ REPORT

武田薬品健康保険組合

HEALTH TOPIC

企業のニーズや環境に合わせて
健康支援プログラムを提供
△(株)ティップネス△



5

2017.No391 MAY

わかる!身につく!健康力
正しく知ろう!
下肢静脈瘤の最新治療とケア法